

あひみんことは 命なりけり

和歌山県立医科大学第二外科 学長特命教授

窪田 昭男

窪田 昭男（くぼた あきお）

1975年金沢大学医学部卒業

1977年～1985年 大阪大学第一外科・小児外科・関連病院で外科・小児外科研修

1985年～2013年 大阪府立母子保健総合医療センター小児外科（2000年より主任部長）

この間、1992年～2000年 近畿大学第二外科（小児外科診療部門創設）

2013年以降、現職

日本外科学会、小児外科学会および消化器外科学会指導医、医学博士

平成二十九年三月八日

三月四日から一週間の予定で、NPO法人ジャパンハート (International medical volunteer) の手術ボランティアでミャンマーに行っていた。そこで携帯電話が鳴った。ジャパンハートで何度もミャンマーに来ている後輩のKが、ミャンマーは国際電話が目の玉が出るほど高いので決して電話には出てはいけなと言っていたが、発信者がNと表示されていたので、Nが何の用事かは分かったので電話に出た。

モン州でのミッションは終わったので、小児外科医のK君と口腔外科医のK女史は翌日帰国する予定であった。私は帰国を一日伸ばしてヤンゴンにあるヤンキン小児病院を訪問して、ジャパンハートの活動の一環として乳児の手術をさせて貰えないか交渉する予定で

あった。予定通りの便だと関空着は三月十一日の朝六時半なので、どんなに急いでも午後一時に富山に行くことは出来ない。一泊のホテルと帰りの飛行機のチケットを放棄して、一日早い便を何とか見つけて十日の朝、関空着の便で帰国した。

ちょうど一年前の三月、Nからメールがあった。テニスをしていたら手がしびれてラケットが握れなくなっていたので、脳のCTを撮ったら、転移が見つかり、サイバーナイフで治療したと言う。他人事のように淡々と言うので、呆れていたら、ウィルヒョウ転移(左鎖骨上窩のリンパ節転移)も見つかったので、放射線治療をしていると言う。その二年前にやはりテニス中に吐血して見つかったという進行性胃がんからの転移であ

る。治療をしながらでも仕事しているというから、見舞いと言うのも変なので、「飯を食いがてら二人だけの励ます会でもしようか」と言ったら、「放射線照射で食道がやられているので(放射線食道炎)、今、来てくれても飯は一緒に食えないよ」と言われた。たまにその年の七月に富山で日本周産期・新生児医学会があったので、その前に「どや、飯食えるようになったか?」と聞くと、「食道炎は治まったが、肝転移が見つかったのでケモ(化学療法)している。食欲はないが食えることは食える」と言う。「飯食えるなら、学会で富山に行くから会おう」と言って、無理やり会うことにした。泊っている全日空ホテルに車で迎えに来てもらって、旬彩千歳という割烹で夕食を御馳走になった。会うなり、ちいさな紙袋を渡